

平成23年度特定課題研究費実績報告書

研究代表者	所属	一般科	職	助教	氏名	大古田隆
研究分担者	所属	首都大学東京	職	准教授	氏名	神田明延
	所属		職		氏名	
	所属		職		氏名	
研究課題名	(和文) CALLシステム研究 (英文) call system study					
研究種目	スタートアップ研究					
研究実績の概要						
<p>本研究は、平成23年度から平成24年度の2カ年に渡って連続して行う研究である。平成23年度は、平成23年度末に行われた本校CALLシステム入れ替えにおいて、教員と学生にとって従来のシステムよりも使いやすい環境を整えるためにはどのようなシステムにすべきかを研究した。上智大学、関西大学、同志社女子大学にて調査を行った。これらの学校は、CALL教室の使用率が高く、効果的にCALL教室を運用している実績がある。また、CALLシステムの運用方法の方針を決め、それに準じたシステム構築を目指した。今回の方針は、品川キャンパスと荒川キャンパスのCALL教室の差異を調査し、均一的に教育が行えるシステム構築である。さらに、CALLシステムを多くの授業で使用可能なシステムにすることであった。これらの方針に伴うシステム入れ替えにおいて、旧システムより発展したシステムを構築できた。研究費申請に当たり、導入を希望するソフトが運用に適しているかを判断するために、システムのプロトタイプを構築するための費用を申請した。『Voice & Script Synchronizer』を購入し、授業に導入できるかをシュミレーションすることができた。この結果、同ソフトを導入するに適していると判断し、本校CALLシステムに導入するに至った。また、他校へのCALLシステム運用調査に関わる経費に運用した。これらの観点から、研究費は適切に使用したと認識している。</p>						
研究発表(論文、著書、講演等)						
<p>平成23年度は新CALLシステム構築の準備に費やした。この成果を平成24年度に研究発表することが既に決まっている。</p>						
その他(教育活動・OPCへの貢献、特許等)						
<p>本校の多くの外国語科教員は、CALLシステムはいわゆるオーラル系の授業に運用するという先入観を持っていると推察している。本校では従来より、CALLシステムを活用した授業にはCommunication Skillsがある。従来のシラバスでは、同授業を前半は普通教室において、後半はCALL教室において行うと記載してきた。しかしながら、普通教室で行われる授業は、CDプレイヤーを使用して、リスニング演習させるという内容であり、同内容の授業展開はCALL教室でも実施可能である。つまり、普通教室で行える作業をCALL教室ではより効率的に行うことができるにもかかわらず、CALL教室を使用してこなかった。音声発信を内容とする授業内容にのみ、CALL教室を使用してきた。このことは、CALLシステムの本質を十分に把握していない結果といえる。平成24年度からは、この点を改善したシラバスに変更した。</p>						